AHシリーズ
スタンダードタイプ AHS Type
耐震タイプ AHST Type

取扱説明書

このたびは、弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ご使用の前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
（この説明書は、必ず保管しておいてください。）

もくじ

安全上のご注意 …… P.1
■輸送上のご注意 …… P.1
■吊上げ時のご注意 …… P.1
■キャスター取付時のご注意 …… P.2
■施工上のご注意 …… P.2
■使用上のご注意 …… P.2
■コンセントバー使用時のご注意 …… P.3
■各部の名称・仕様 …… P.4
■設置方法 …… P.5
■連結方法 …… P.5
■外装パネルの着脱方法 …… P.6
■ドア左開きの変更方法 …… P.7
■ケージナット用マウントアングルの移動方法 …… P.9
■各種オプションの取付方法 …… P.10

安全上のご注意

施工、使用（操作・保守・点検）の前に必ずこの説明書とその他の注意書きをすべて熟読し、正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用ください。この説明書では、安全注意事項のランクを「警告」「注意」として区分してあります。

⚠警告	回避しないと、死亡または重傷を招くおそれがある危険な状況を示します。
⚠注意	回避しないと、軽傷または中程度の傷害を招くおそれがある危険な状況および物的損害のみの発生するおそれがある場合を示します。

なお、⚠注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。
いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

- お守りいただく内容を次の図記号で区分しています。
  - ⚠ 気をつけていただく内容です。
  - ⃠ してはいけない内容です。
  - ❗ 実行しなければならない内容です。

■輸送上のご注意

⚠警告

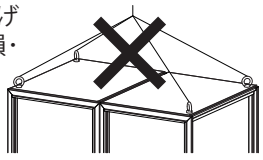
⃠ ラック内に機器を搭載した状態での輸送はしないでください。ラックおよび機器が破損するおそれがあります。

⃠ 本製品をベルトなどで荷台に固定する場合は、締過ぎないでください。特に締過ぎを認識できないレバーブロックなどの荷締器具は使用しないでください。締過ぎにより、ドアの変形や蝶番部の破損の原因になります。

■吊上げ時のご注意

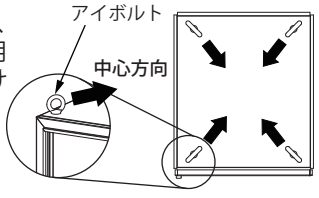
⚠警告

⃠ 本製品を連結した状態で吊上げしないでください。落下・破損・変形の原因になります。

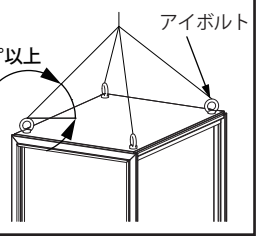


⃠ 吊上げ可能質量を超えないでください。
落下・破損・変形の原因になります。
吊上げ可能質量：900kg（製品質量を含む）
（製品質量はカタログを参照）

❗ 本製品を吊上げる場合は、アイボルト【RD71-16】を使用し、吊上げ中心方向に向けて固定してください。
落下・破損・変形の原因になります。



❗ 必ず 4ヵ所で吊上げ、45°以上の角度で均一な荷重にしてください。2ヵ所での吊上げや45°未満の角度での吊上げは、落下・破損・変形の原因になります。



■キャスター取付時のご注意

⚠警告

本製品にキャスターを取付ける場合は、キャスター【RD72-6T(S)】を使用して、許容荷重を超えないでください。転倒・破損・変形の原因になります。
許容荷重：900kg（4 個使用の場合、製品質量含む）
（製品質量はカタログを参照）

キャスター取付けの際は、必ず 3 人以上で作業してください。けがの原因になります。

キャスター取付けの際は、周囲の安全を確認の上、ラック本体を横に倒してください。けがの原因になります。

本製品を横に倒す際は、ドア・側板など外装パネルを取外してください。変形・破損の原因になります。

⚠注意

キャスターのストッパーを手で操作する際は、可動部に指を挟まないでください。けがの原因になります。

設置後は、必ずキャスターのストッパーを ON にしてください。転倒・破損の原因になります。

■施工上のご注意

⚠警告

アース端子を利用して、アース接続を必ず行ってください。
感電の原因になります。

設置・連結を行う際は、必ず 2 人以上で作業してください。
けがの原因になります。

アンカーボルトは必ず M16 を使用してください。
地震などで転倒・破損の原因となります

連結を行う際など脚立に乗って作業する場合は、足元が安定していることを確認してください。転倒・落下によるけがの原因になります。

⚠注意

ラック本体が水平に設置できるように、レベル調整を行ってください。
ドアの開閉や機器の搭載に支障をきたすおそれがあります。

■使用上のご注意

⚠警告

機器をスライドレールなどにより引出す際は、二段以上同時に引出さないでください。転倒・破損・変形の原因になります。

重量物は低い位置に設置し、重心位置を低くしてください。
重量物をスライドレールなどにより引出した場合、転倒・破損・変形の原因になります。

側板の着脱を行う際は、必ず 2 人以上で作業を行ってください。けがの原因になります。

⚠注意

ドア着脱の際は、蝶番のレバー操作で指を挟まないようにしてください。けがの原因になります。

蝶番・ロッド棒受金具を取外す際は、取付ねじの破損・落下に注意してください。

フレームを分解しないでください。ドアの開閉や機器の搭載に支障をきたすおそれがあります。

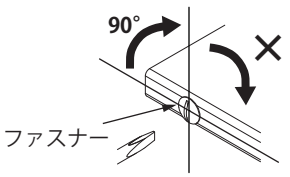
次のような場所では使用しないでください。
故障の原因になります。
- 高温、高湿となる場所
- 腐食性ガスのある場所
- 振動、衝撃のある場所
- 可燃性ガスのある場所
- 塵埃やオイルミストが多い場所
- ノイズ（電界・磁界）の強い場所
- 水滴のかかる場所

本製品に落下などの強い衝撃を与えないでください。
衝撃によりヘコミや歪みが発生し、強度低下の原因になります。

天井面へは局部的な荷重をかけないでください。変形の原因になります。

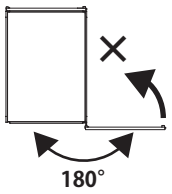
本製品を横倒しの状態で機器を搭載しないでください。
また、機器を搭載した状態 でラックを横倒しにしないでください。ラックの変形・機器の破損の原因になります。

台板取付用ファスナーは 90° 以上回さないでください。破損の原因になります。



⚠注意

ドアの開閉角度は約 180°です。
扉を開けた状態で、矢印方向に
さらに荷重を掛けないでください。
蝶番部の破損・変形の原因になり
ます。



ハンドルのシリンダーにキーを差した状態で、キーに強い衝撃や荷重を掛けないでください。キー・シリンダーの破損の原因になります。

シリンダーにキーを抜差ししながら回転方向にテンションをかけないでください。キー・シリンダーの破損の原因になります。

シリンダーの施錠位置以外では、キーを無理に引抜かないでください。キー・シリンダーの破損の原因になります。

蝶番のレバーを無理に可動しないでください。
レバーの破損の原因になります。

使用するねじは、指定されたものを使用してください。
取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。
締付けが不十分な場合、破損・落下の原因になります。
また、締付け過ぎの場合は、製品を破損するおそれがあります。

ねじ呼び	適正締付トルク N・m※1
M 4	1.5 ～ 2.0
M 5	2.5※2
	2.9 ～ 3.9
M 6	3.9 ～ 4.9
M16	50.0 ～ 59.8

※1. ただし、S タイトねじにおいて締付時の初期トルクはこの限りではありません。
※2. ケーブルホルダーをねじで固定する場合に適用します。

機器を前面もしくは背面のマウントアングルのみで固定する場合は、機器の質量が 1U あたり 5kg 以下としてください。5kg を超える場合は L 型レール【RD65】などを併用して、固定してください。
※機器の質量が 5kg 以下であっても形状（奥行寸法）や重心位置、施工時の取扱いなどによって機器後部が下がる場合があります。

搭載した機器は、必ず固定してください。地震などで機器の落下・破損の原因になります。

ハンドルの施錠・解錠する頻度が多い場合は、キー・シリンダーに定期的に鍵用潤滑剤を塗布してください。キーの抜差しが硬くなるおそれがあります。
・潤滑剤を使用しない場合の施解錠寿命は、約 1 万回です。
・キー・シリンダーの磨耗により交換が必要な場合は、別途ご用命ください。

ハンドル部の交換はドアを外して作業を行ってください。
部品・ねじが落下して紛失の原因になります。

ドア着脱の際は、ドア下部の蝶番ピンが確実に差込まれていることを確認の上、ドア上側の蝶番のレバー操作をしてください。ドアの脱落・破損の原因になります。

連結して使用する場合は、隣接するラックにドアが接触しないように手を添えて開閉してください。勢いよくあけると隣接するラックに接触して、ドア・ハンドル・キーの変形・破損の原因になります。

■コンセントバー使用時のご注意

⚠警告

分解禁止

分解、改造をしないでください。
感電・火災の原因になります。

水ぬれ禁止

水のかかるところでは使用しないでください。
感電・火災の原因になります。

ぬれ手禁止

被覆に傷が付いた状態での使用や、濡れた手でのプラグの抜差しはしないでください。感電の原因になります。

通電中にカバーを外して、端子部に触れないでください。
感電の原因になります。

コードの固定・引張り・はさみ・無理な曲げ・ねじり・傷付け・加工・加熱・重いものを載せるなどしないでください。
コードが断線し火災の原因になります。

定格容量を超えないで使用してください。
過熱して火災の原因になります。

電源コードを束ねての使用は避けてください。
電源コードが過熱して火災の原因になります。

二重三重のたこ足配線はしないでください。プラグが抜けやすくなり、発熱して火災の原因になります。

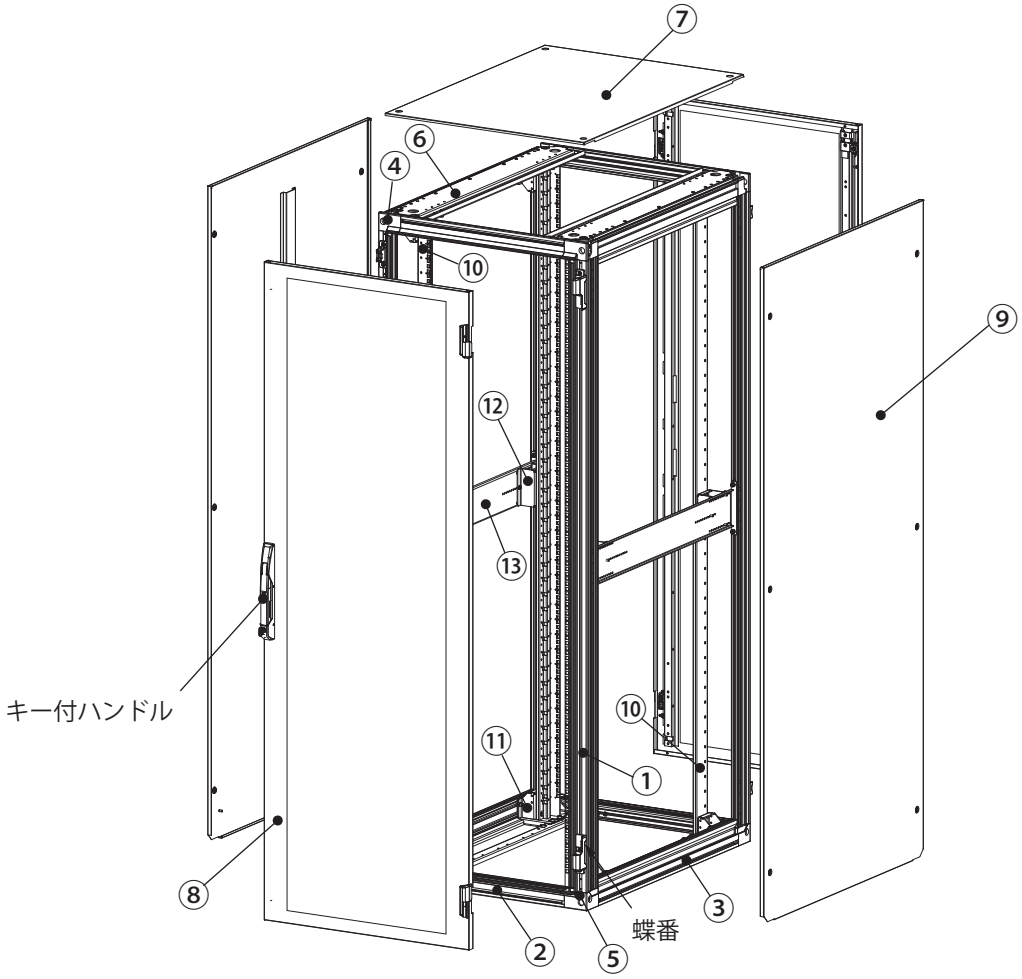
プラグの差込みが浅い状態で使用しないでください。
感電・火災の原因になります。

プラグの抜差しが極端に弱い状態で使用しないでください。発熱して火災の原因になります。

電源コード・プラグ・コンセントが破損したままの状態で使用しないでください。感電・火災の原因になります。

必ずプラグを持ってまっすぐに引抜いてください。
内部の電線が切れて、焼損・火災の原因になります。

■各部の名称・仕様



部品名		材質	板厚mm	数量
①	フレームタテ	アルミ	―	4コ
②	フレームヨコ	〃	―	4コ
③	フレームフカサ	〃	―	4コ
④	コーナー(上)	〃	―	4コ
⑤	コーナー(下)	〃※	―	4コ
⑥	アダプタフレーム	鉄	2.3	4コ
⑦	天井板	〃	0.8	1コ
⑧	ドア	〃	〃	2コ
⑨	側板	〃	〃	2コ
⑩	ケージナット用マウントアングル	〃	2.0	4コ
⑪	アングル取付アダプタ	〃	2.3 3.2	8コ
⑫	アングル固定金具	〃	2.3	4コ
⑬	側フレーム	〃	〃	2コ

※AHSTの場合、材質は鉄となります。

●付属品

名称	数量
キー	4コ
ケージナット用取付工具	1コ
取扱説明書(本紙)	1部

⚠注意

フレームを分解しないでください。
ドアの開閉や機器の搭載に支障をきたすおそれがあります。

ご注意

・サーバを搭載する場合、各サーバによってレールの形状などが異なり、取付けができない場合があります。
・組替仕様・オプション実装(同送)・特注対応により付属品の数量・種類などを変更する場合があります。
・ケージナット【RD751】は付属されていませんので、別途ご用命ください。

■設置方法

⚠警告

アンカーボルトは必ず M16 を使用してください。
地震などで転倒・破損の原因となります。また、制震効果を発揮しないおそれがあります。

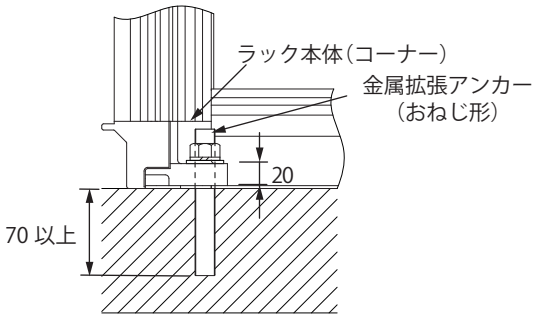
⚠注意

ラック本体が水平に設置できるように、調整部材でレベル調整をしください。
ドアの開閉や機器の搭載に支障をきたすおそれがあります。

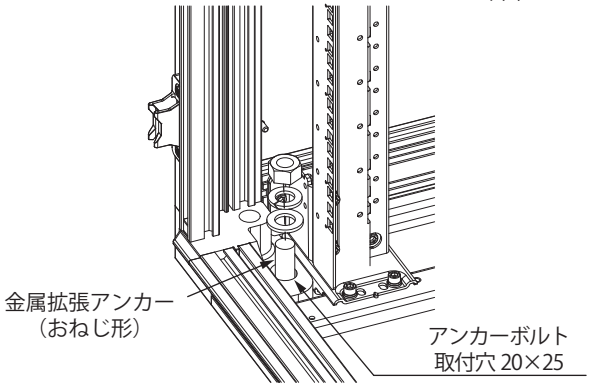
ラック本体底面のアンカーボルト取付用穴（長穴 20mm×25mm 4 ヵ所）に、M16 アンカーボルトで床面に固定してください。

ボルト径	最小埋込深さ mm
M16	70

（単位：mm）



あと施工アンカー施工例

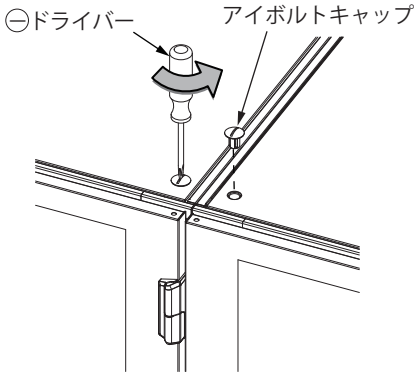


■連結方法

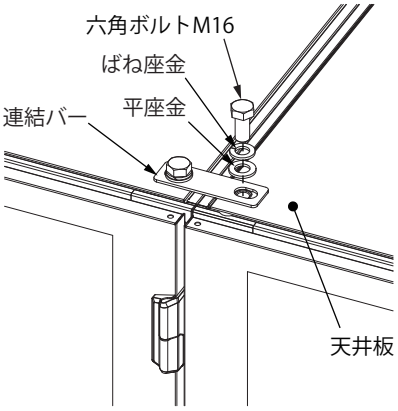
オプション・天井連結金具セット【RD76-1FH】を使用して連結してください。

1. ラックの連結間に隙間がないように設置してください。
2. ラック天面のアイボルトキャップを左回りに回して取外してください。（連結側のみ）
   アイボルトキャップが手で回らない場合は、⊖ドライバーなどを使用してください。
3. 天井連結金具セットの連結バーを天井板の上にのせ、付属の六角ボルト M16・ばね座金・平座金にて締付けて連結してください。

ご注意 アイボルトキャップを取外す場合は、天井板の落下に注意してください。



アイボルトキャップの取外し



天井連結金具の取付

⚠注意

取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。締付けが不十分な場合、破損・落下の原因になります。また、締付け過ぎの場合は、ねじ山を破損するおそれがあります。

ねじ呼び	適正締付トルク N・m
M16	50.0 ～ 59.8

■外装パネルの着脱方法

機器の搭載･配線を行う際は､必要に応じて外装パネルを取外して作業してください。

●ドアの取外方法

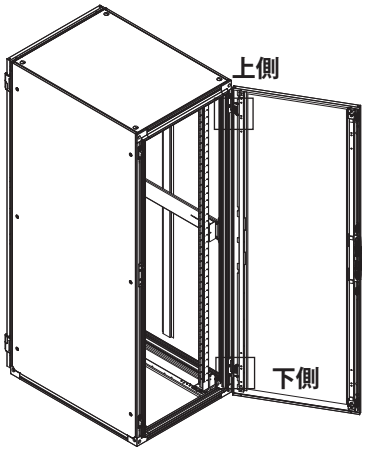
1. ドアを 90° 以上開けた状態で､蝶番（上側）のレバーを下げてください。
2. ドア全体を上に持上げてドアを取外してください。

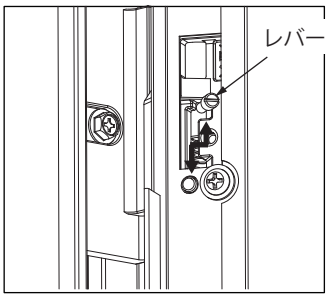
●ドアの取付方法

1. 蝶番（下側）の蝶番ピンを本体下側の蝶番に差込んでください。
2. 蝶番（上側）のレバーを上げてドアを取付けてください。

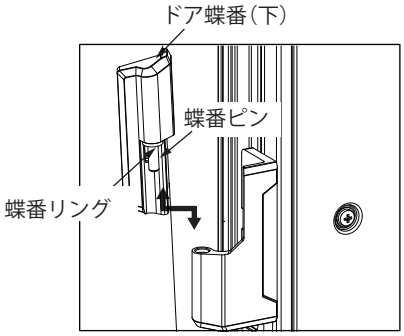
ご注意

・ドア下部の蝶番ピンを差込む際に､蝶番リングが取付けられていることを確認してください。
・ドアを取付けた後に､ドアが外れないか､がたつきがないか必ず確認してください。





蝶番（上側）

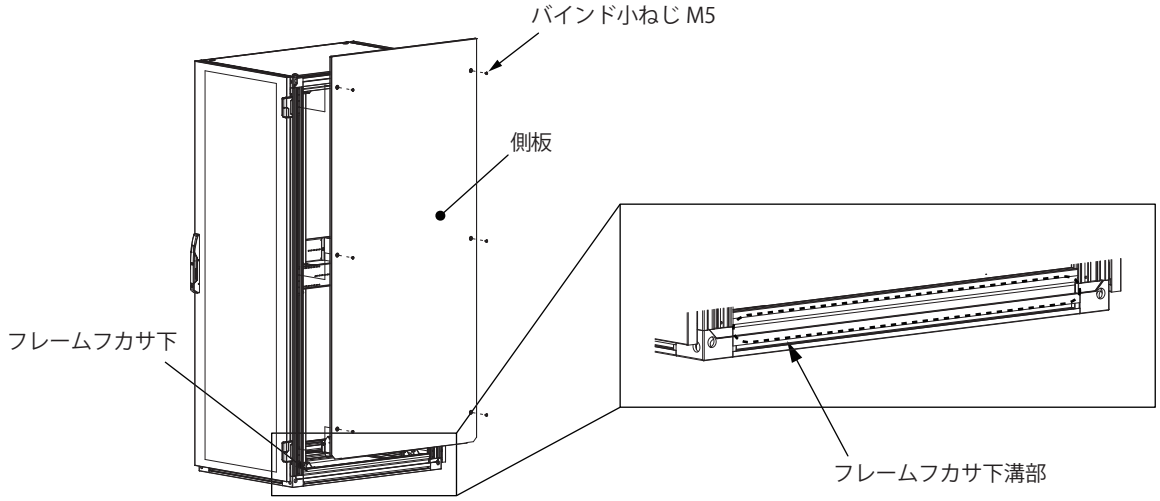


蝶番（下側）

⚠注意	
指に注意 ドア着脱の際は、蝶番のレバー操作で指を挟まないようにしてください。けがの原因になります。	ドア着脱の際は､ドア下部の蝶番ピンが確実に差込まれていることを確認の上､ドア上側の蝶番のレバー操作をしてください。ドアの脱落・破損の原因になります。
蝶番のレバーを無理に可動しないでください。 レバーの破損の原因になります。	

●側板の着脱方法

1. 側板の取付ねじ（バインド小ねじ M5）を取外してください。
2. 側板全体を上へ持上げて側板下部をフレームフカサ下溝部から抜いて､側板を取外してください。
3. 取付けの場合は逆の手順で行ってください。



⚠注意	
取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。締付けが不十分な場合、破損･落下の原因になります。また、締付け過ぎの場合は､ねじ山を破損するおそれがあります。	

ねじ呼び	適正締付トルク N･m
M5	2.9 ～ 3.9

●外装パネルの施錠・解錠方法

《ドアの施錠・解錠方法》

1. ハンドルのシリンダー部にキーを奥まで差込んでください。
2. 左回りで施錠、右回りで解錠してください。

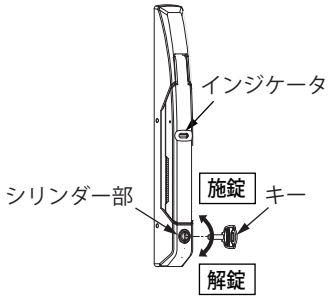
《側板の施錠・解錠方法》

【対象機種：側板組替仕様・側板鍵付タイプ(-SK)、(-SKR)、(-SKL)】

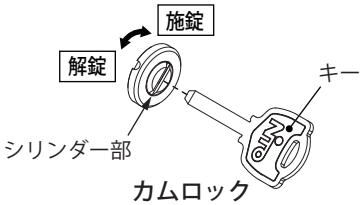
1. カムロックのシリンダー部にキーを奥まで差込んでください。
2. 右回りで施錠、左回りで解錠してください。

ご注意

- キーは施錠時のみ抜差しができます。
- ハンドルの施解錠の状態は中央のインジケータで確認できます。(緑：解錠、赤：施錠)
- ハンドルのキーが抜かれた状態(施錠状態)でドアを閉めると自動施錠されます。ラック内へのキーの置忘れに注意してください。
- 施錠操作後に、確実にロックされていることを確認してください。
- キーの抜差しは、所定の位置でゆっくりと確実に行ってください。また、キーを完全に差込まない状態での回転動作は行わないでください。



ハンドル



カムロック

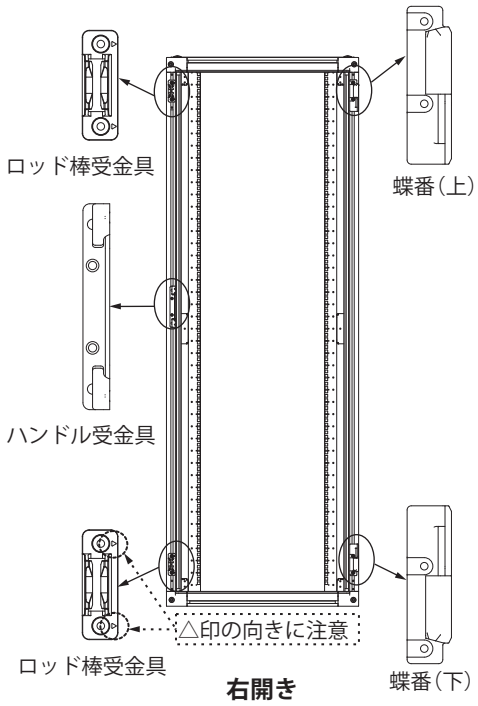
⚠注意

⊘	ハンドルのシリンダーにキーを差した状態で、キーに強い衝撃や荷重を掛けないでください。キー・シリンダーの破損の原因になります。	❗	ハンドルの施錠・解錠する頻度が多い場合は、キー・シリンダーに定期的に鍵用潤滑剤を塗布してください。キーの抜差しが硬くなるおそれがあります。 ・潤滑剤を使用しない場合の施解錠寿命は、約 1 万回です。 ・キー・シリンダーの磨耗により交換が必要な場合は、別途ご用命ください。
	シリンダーにキーを抜差ししながら回転方向にテンションをかけないでください。キー・シリンダーの破損の原因になります。		
	シリンダーの施錠位置以外では、キーを無理に引抜かないでください。キー・シリンダーの破損の原因になります。		

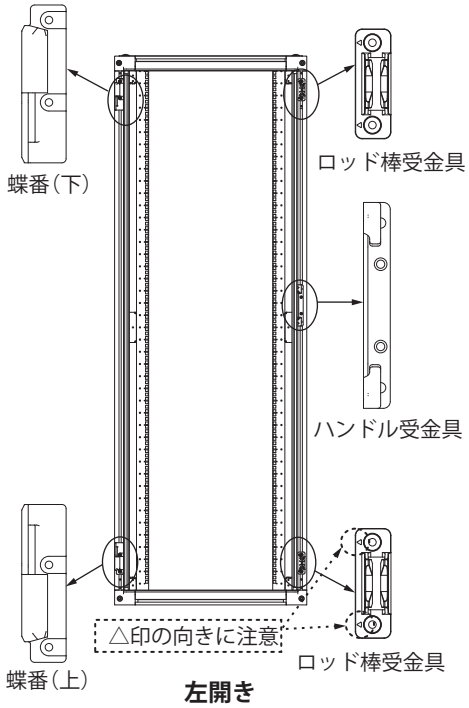
■ドア左開きの変更方法

●本体組付け部品の変更

1. ドアを取外してください。(P.6「●ドアの取外方法」を参照)
2. 下図を参考に、蝶番、ロッド棒受金具、ハンドル受金具を付け直してください。
   この時、蝶番の向き、ロッド棒受金具の向きを下図のようになるように確認してください。



右開き



左開き

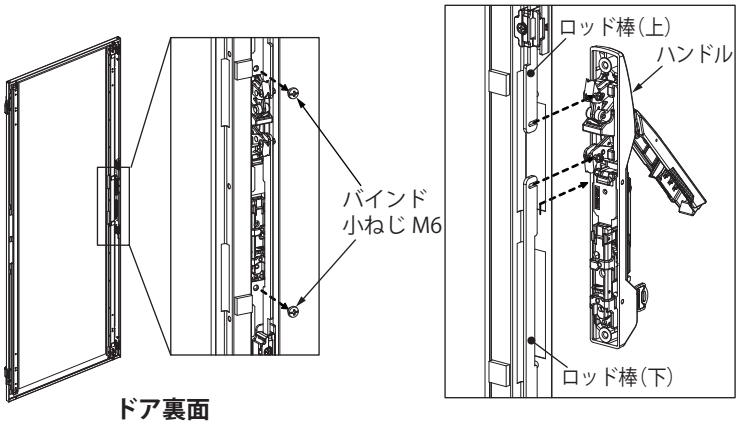
⚠注意

⚠	蝶番・ロッド棒受金具を取外す際は、取付ねじの破損・落下に注意してください。

●ドア組付部品の変更

1. ハンドルの取外し

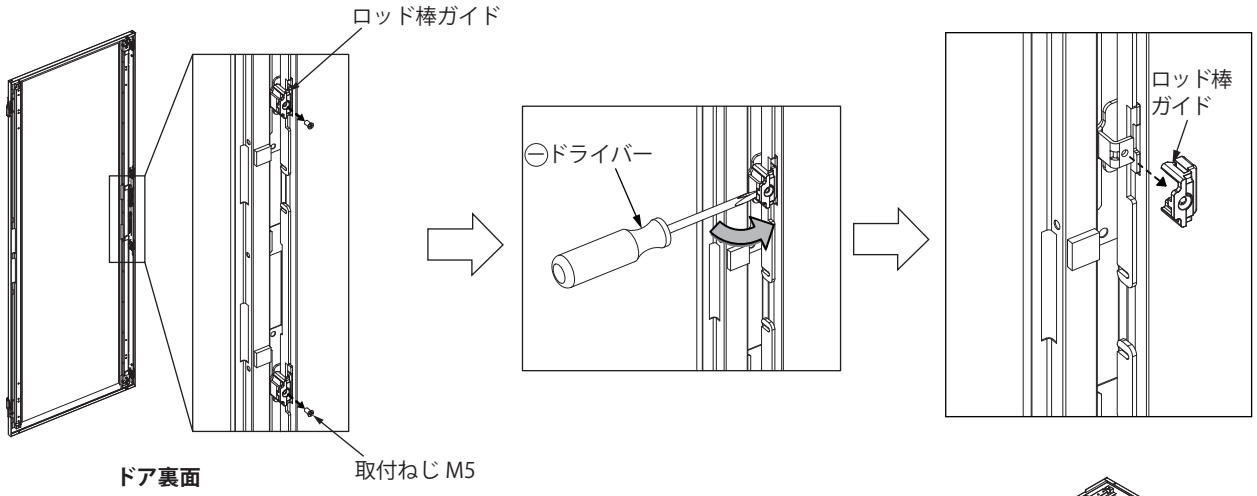
ドア裏面のハンドルの取付ねじ（バインド小ねじ M6）2 ヵ所を外し、ハンドルを取外してください。



ドア裏面

2. ロッド棒ガイドの取外し

ドア裏面のロッド棒ガイド（2 コ）の取付ねじ（M5）を外し、㊀ドライバーなどを利用してロッド棒ガイドを取外してください。

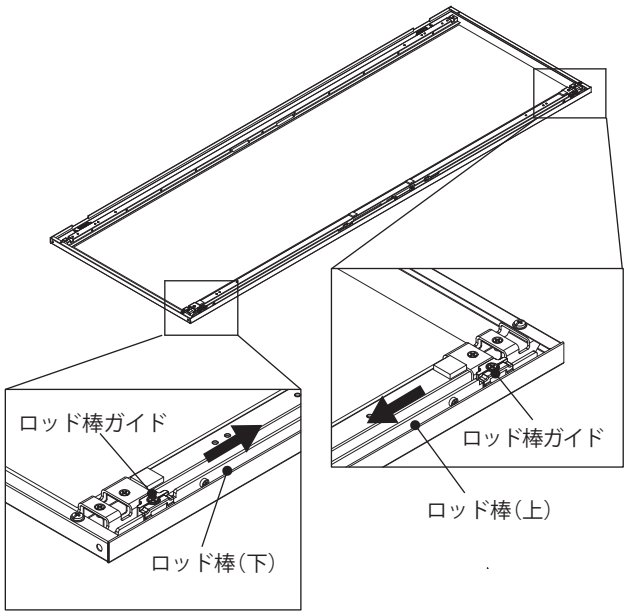


ドア裏面

3. ロッド棒の反転

①ロッド棒をスライドさせて、上下端のロッド棒ガイドからロッド棒を外してください。

②ロッド棒の上下を反転して、取外し手順と逆の手順で取付けてください。



⚠注意

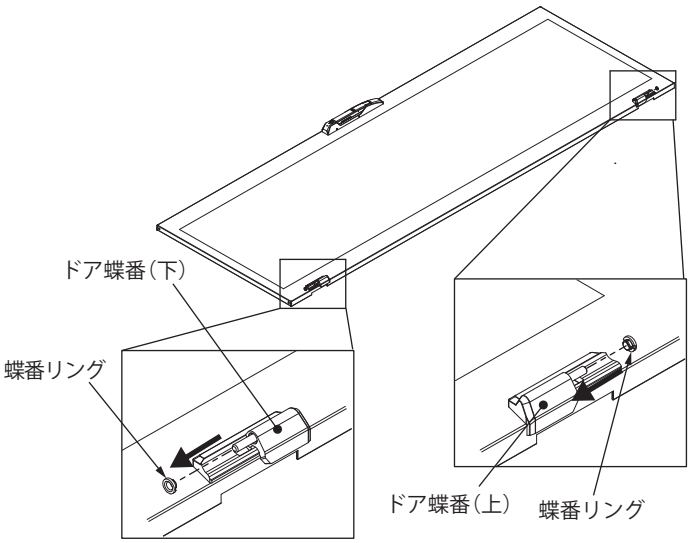
取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。締付けが不十分な場合、破損・落下の原因になります。また、締付け過ぎの場合は、製品を破損するおそれがあります。

ねじの呼び	適正締付トルク N・m
M5	2.9 ～ 3.9
M6	3.9 ～ 4.9

ハンドル部の交換はドアを外して作業を行ってください。
部品・ねじが落下して紛失の原因になります。

4. 蝶番リングの位置変更

ドア蝶番（下）に付いている蝶番リングを取外して、ドア蝶番（上）へ取付けてください。



5. 取外し部品の再組付

①ロッド棒ガイドを取付け、ハンドルを上下反転させてから取付けてください。

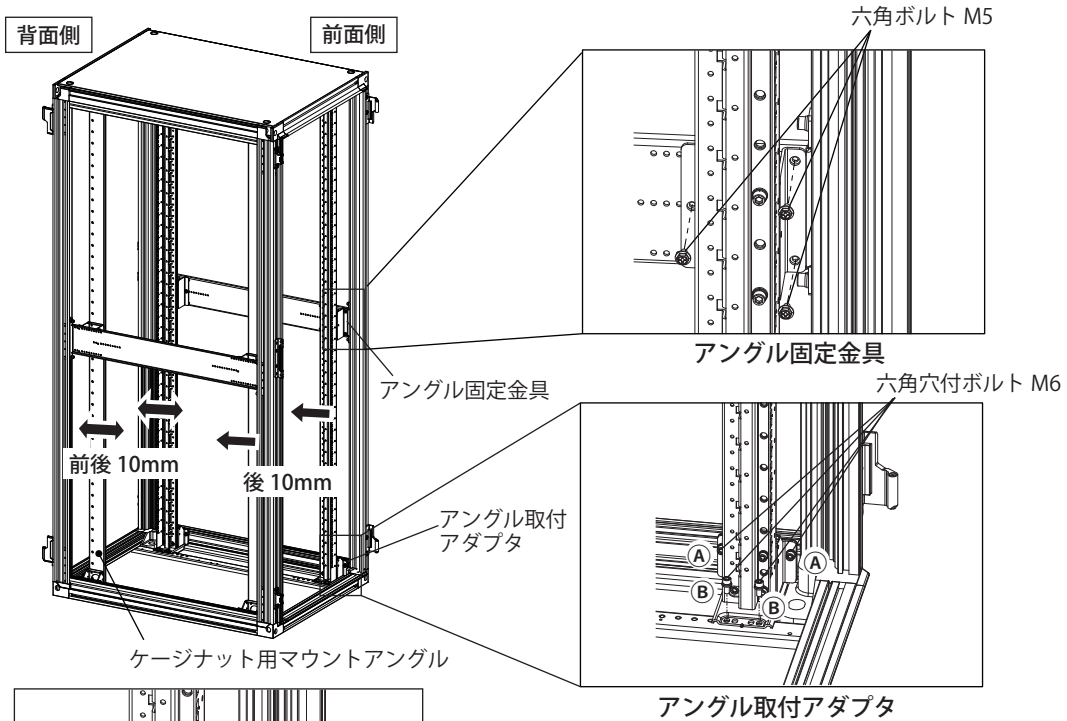
②ドアを組付けてください。（P.6 ●ドアの取付方法」を参照）

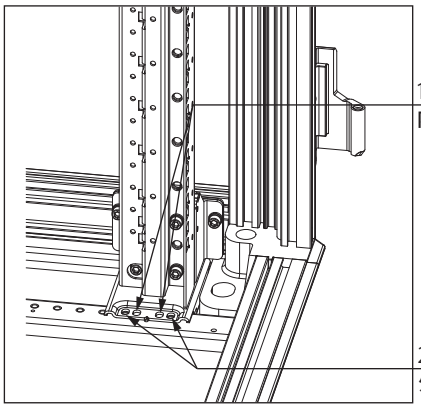
③ハンドル受金具の上下位置を調整し完了となります。

■ケージナット用マウントアングルの移動方法（移動ピッチ10mm）

機器の寸法に合わせて、ケージナット用マウントアングルを移動して調整してください。

1. ケージナット用マウントアングルを取付けているアングル取付アダプタ（上側・下側）の取付ねじ（六角穴付ボルト M6）のうち、図中Ⓐのねじを 2 本ゆるめ、図中Ⓑのねじを 2 本取外してください。［使用工具：六角棒レンチ（呼び 5）］
2. アングル固定金具（中央）の取付ねじ（六角ボルト M5）3 本を取外してください。





ご注意

アングル取付アダプタの取付ねじは、10mm ピッチ移動時と 20mm ピッチ移動時で取付穴が異なります。

⚠注意

取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。締付けが不十分な場合、破損・落下の原因になります。また、締付け過ぎの場合は、製品を破損するおそれがあります。

ねじの呼び	適正締付トルク N・m
M5	2.9 ～ 3.9
M6	3.9 ～ 4.9

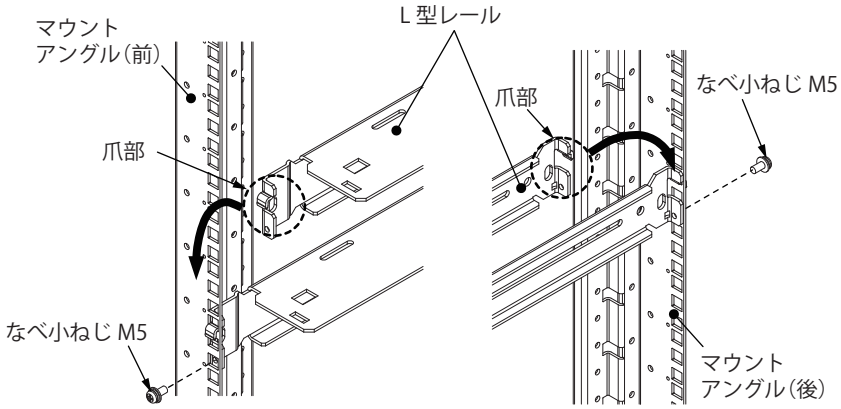
■各種オプションの取付方法

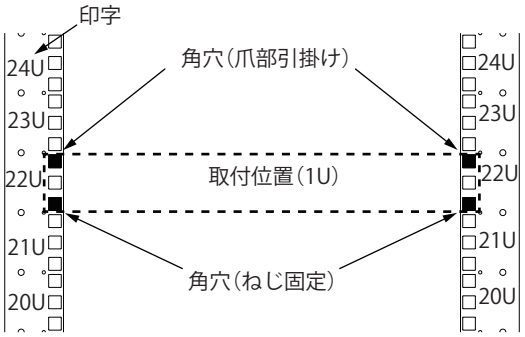
●スリット付台板セット・前後マウントタイプ【RD153-61ES(K)N】

1.L 型レールの取付

L 型レールの長さを調整して、L 型レールの爪部をマウントアングル(前)・(後)の角穴に引掛けて、付属ねじ(なべ小ねじ M5)で固定してください。
使用する角穴の位置は、取付位置(1 Uの高さ)の上側の角穴となります。

ご注意 マウントアングルに番号が印字されています。前後左右で同じ番号の位置に取付いているか確認してください。

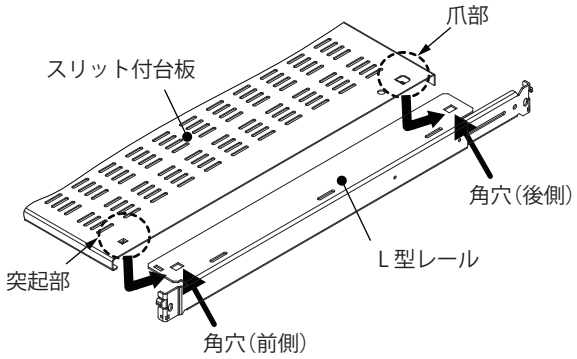




2. スリット付台板の取付

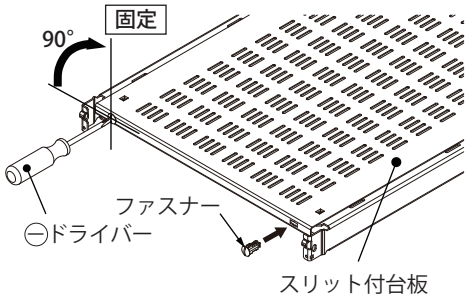
①スリット付台板の爪部をL 型レールの角穴 (後側) に差込んで位置決めしてください。

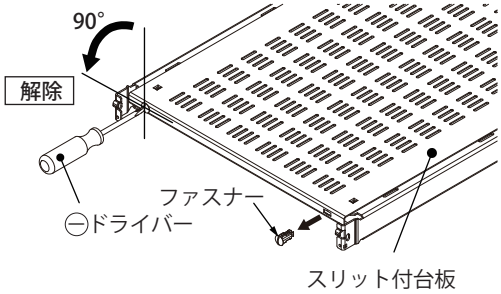
②スリット付台板の突起部とL 型レールの角穴 (前側) の位置が合うように台板を置いてください。



③付属のファスナーをスリット付台板前面の固定穴に差込んで、⊖ドライバーなどで右回りに 90° 回して固定してください。

④スリット付台板を外す際は、ファスナーを左回りに 90° 回して固定を解除してください。



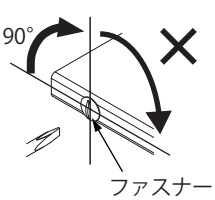


⑤ファスナーを前面に引いた状態でスリット付台板を外してください。

ご注意 ファスナーは完全には引抜かないでください。

⚠注意

台板取付用ファスナーは 90° 以上回さないでください。破損の原因になります。



取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。締付けが不十分な場合、破損・落下の原因になります。また、締付け過ぎの場合は、製品を破損するおそれがあります。

ねじの呼び	適正締付トルク N·m
M5	2.9 ～ 3.9

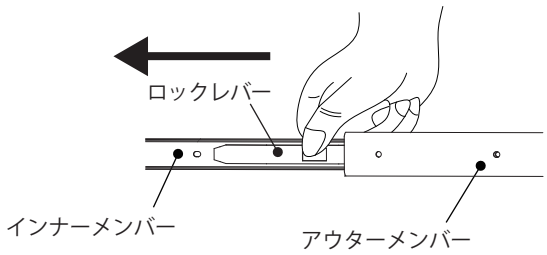
●スリット付スライド式台板セット・前後マウントタイプ【RD162-51ESK】

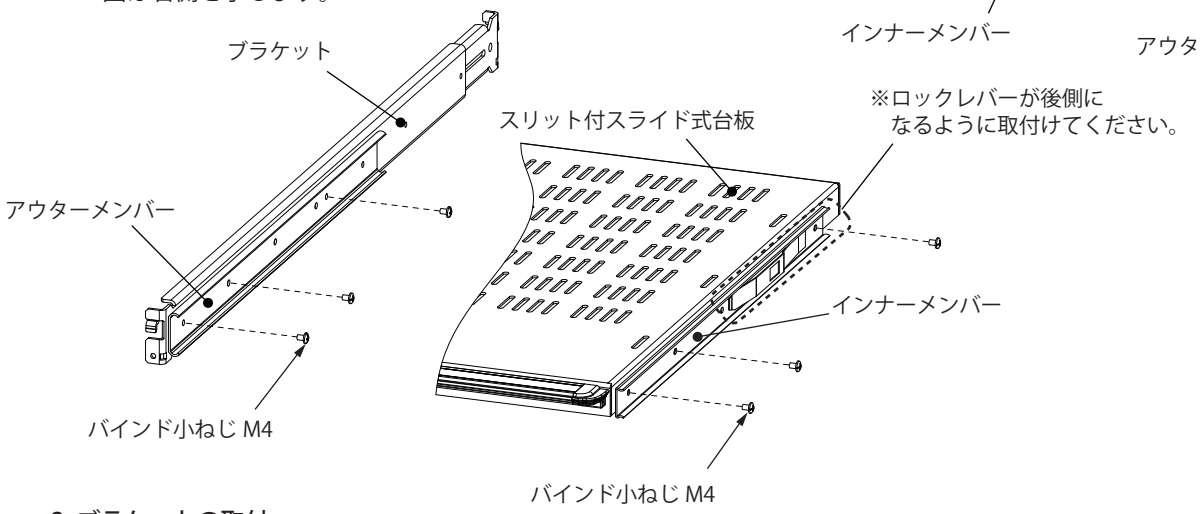
1. スライドレールの取付

①ロックレバーを押込んでロックを解除して、インナーメンバーをアウターメンバーから取外してください。

②ブラケットにアウターメンバー、スリット付スライド式台板にインナーメンバーを付属ねじ（バインド小ねじ M4）で固定してください。

※図は右側を示します。

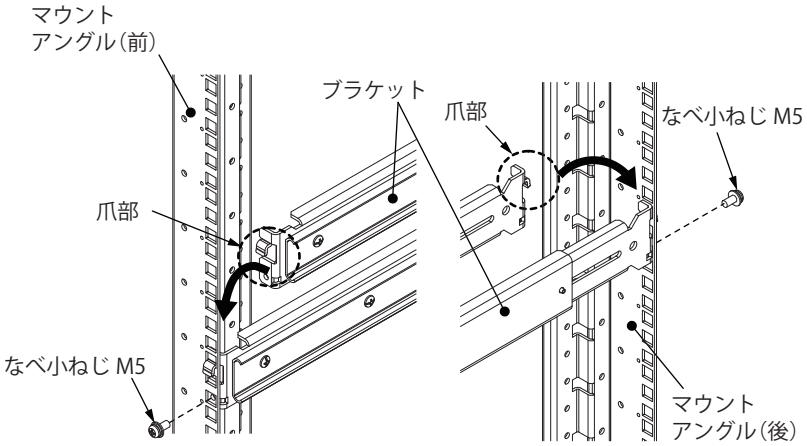


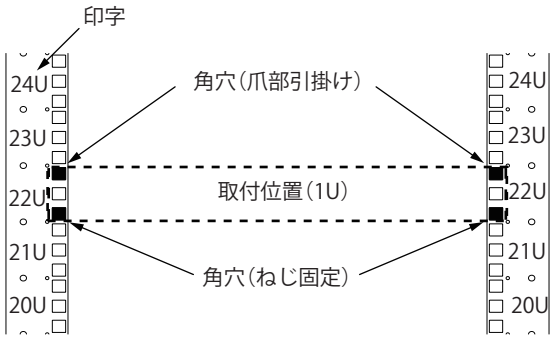


2. ブラケットの取付

ブラケットの長さを調整して、ブラケットの爪部をマウントアングル（前）・（後）の角穴に引掛け、付属ねじ（なべ小ねじ M5）で固定してください。使用する角穴の位置は、取付位置（１Ｕの高さ）の上側の角穴となります。

ご注意　マウントアングルに番号が印字されています。前後左右で同じ番号の位置に取付いているか確認してください。





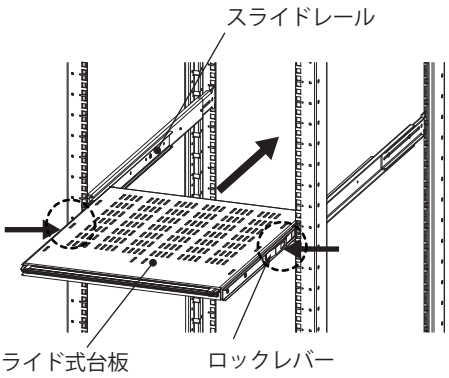
3. スリット付スライド式台板の取付

①スリット付スライド式台板をブラケットのスライドレールに挿入してください。

②スリット付スライド式台板両側にあるロックレバーを左右同時に押込みながら、スリット付スライド式台板をロックが掛かるまで奥に収納してください。

ご注意

最初の挿入時は動きが硬く感じる場合があります。数回の出し入れを繰返しながら徐々に押込んでください。



⚠注意

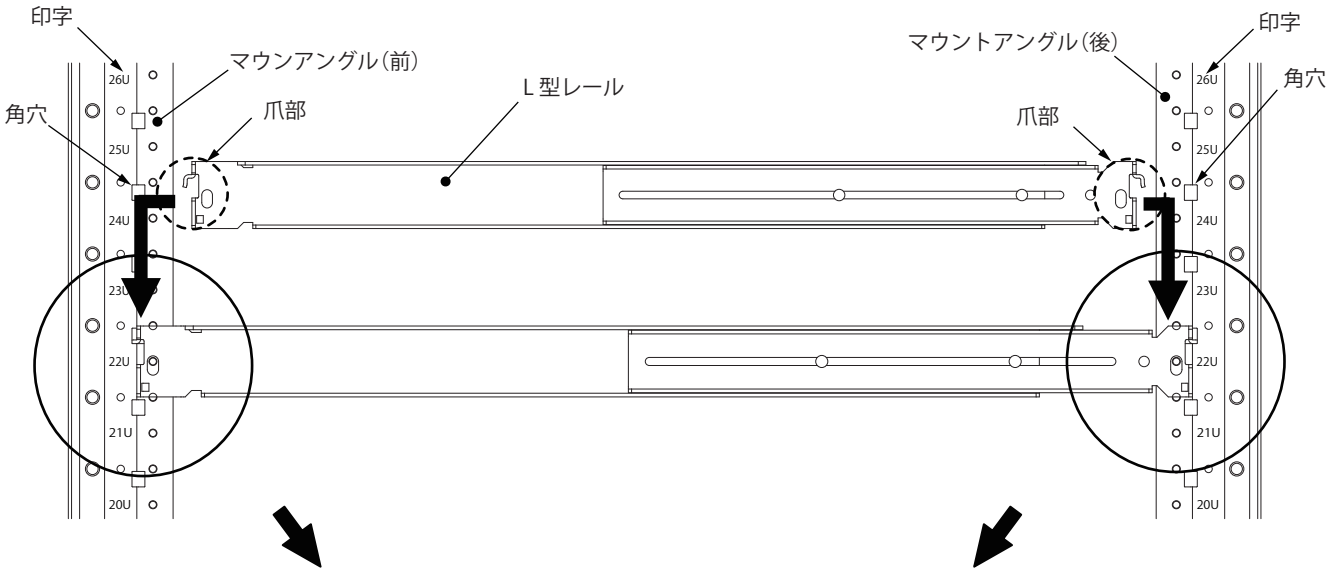
取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。締付けが不十分な場合、破損・落下の原因になります。また、締付け過ぎの場合は、製品を破損するおそれがあります。

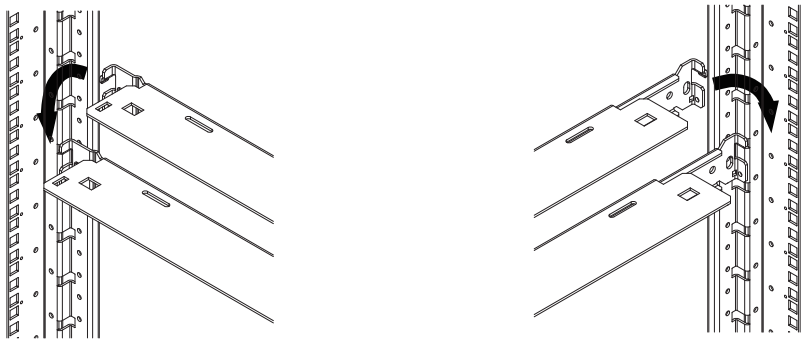
ねじ呼び	適正締付トルク N・m
M4	1.5 ～ 2.0
M5	2.9 ～ 3.9

●L 型レール【RD65-60AHK】

1.L 型レールの長さを調整して、L 型レールの爪部をマウントアングル（前）・（後）の側面にある角穴に引掛けてください。

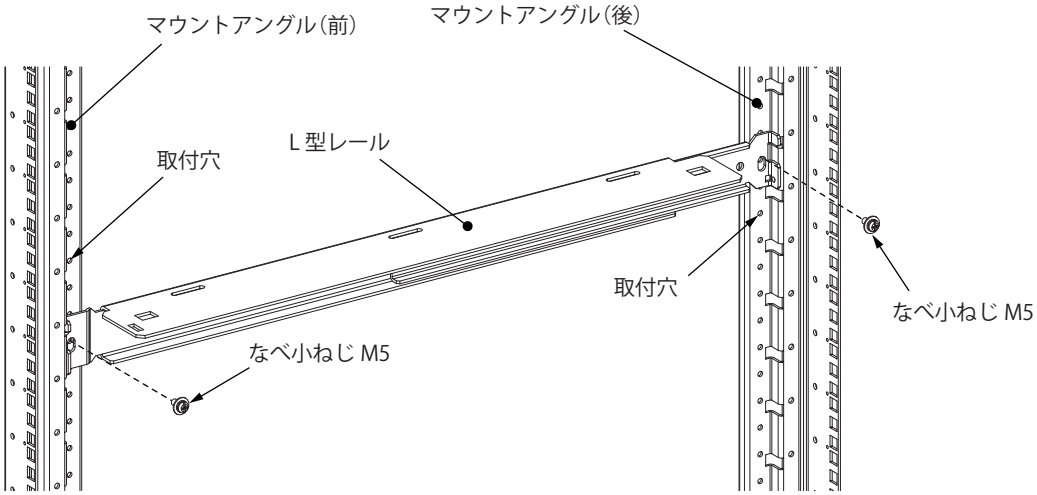
ご注意 マウントアングルに番号が印字されています。前後左右で同じ番号の位置に取付いているか確認してください。





前側 **後側**

2. マウントアングル（前）・（後）の取付穴に付属ねじ（なべ小ねじ M5）でL 型レールを固定してください。



⚠注意

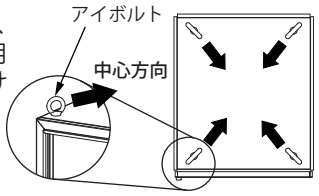
取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。締付けが不十分な場合、破損・落下の原因になります。また、締付け過ぎの場合は、製品を破損するおそれがあります。

ねじ呼び	適正締付トルク N・m
M5	2.9 ～ 3.9

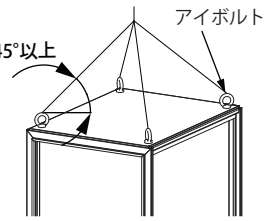
●アイボルト【RD71-16】

⚠警告

本製品を吊上げる場合は、アイボルト【RD71-16】を使用し、吊上げ中心方向に向けて固定してください。
落下・破損・変形の原因になります。

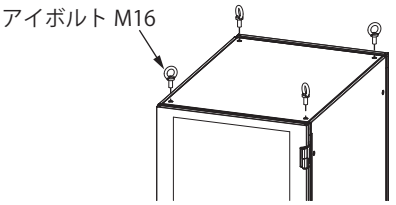


必ず 4 ヵ所で吊上げ、45° 以上の角度で均一な荷重にしてください。2 ヵ所での吊上げや 45° 未満の角度での吊上げは、落下・破損・変形の原因になります。



天面の 4 コーナーにあるアイボルトキャップを取外し、アイボルト M16 を取付けてください。

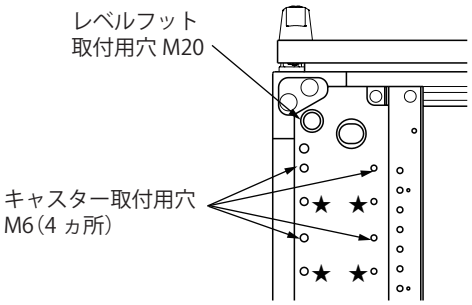
ご注意
アイボルトキャップを取外す場合は、天井板の落下に注意してください。



●キャスター【RD72-6T(S)】

ラック本体底面の 4 コーナーにあるキャスター取付用穴 M6(4 ヵ所)に取付けてください。

ご注意
キャスター [ストッパー付]【RD72-6T(S)】とレベルフット【RD73-10T】を同時取付する際は★印のついた 4 ヵ所に取付けてください。



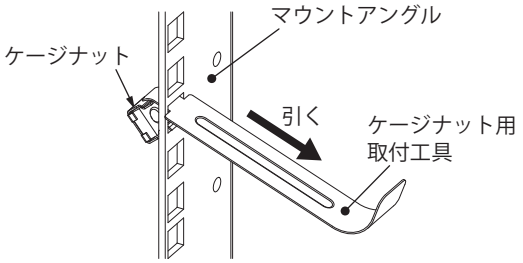
●レベルフット【RD73-10T】

ラック本体底面のレベルフット取付用穴 M20 に取付けてください。

●ケージナット【RD751】

1. ケージナットのばねの一方をマウントアングルの角穴に引掛けてください。
2. ラックに付属のケージナット用取付工具または、⊖ドライバーなどでもう一方のばねに引掛けて、引いて角穴に入れてください。

ご注意
角穴ピッチが小さくケージナット同士が干渉し取付けづらい場合は、ケージナットを 90° 回転させヨコ向きにして取付けてください。

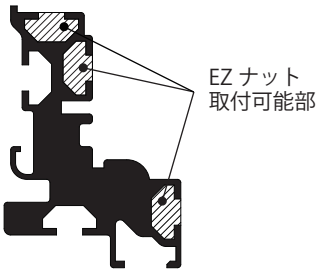


ケージナット(タテ向き)取付例

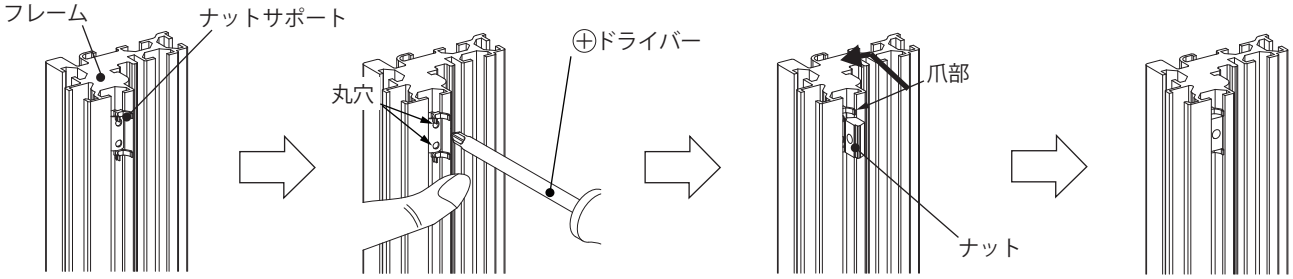
●EZ ナット【RD85-5AH】

1. ナットサポートをフレームの EZ ナット取付可能部にはめ込んでください。
2. ナットサポートが落下しないよう指で押えながら、丸穴部分 2 ヵ所を⊕ドライバーなどで押して、ナットサポートを押込んでください。
3. ナットのねじ穴がフレームに対して横向きの状態でナットサポート爪部間にはめて、フレーム内でねじ穴が正面を向くように、押込みながら回転させてください。

ご注意 最後にナットが確実にはめ込まれていることを確認してください。



EZ ナット取付可能部
フレームタテ断面図



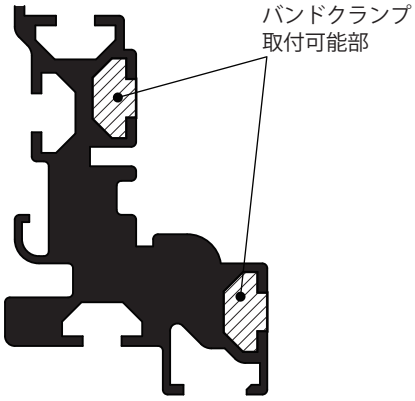
EZ ナット取付手順

●バンドクランプ【RD852-2AH】

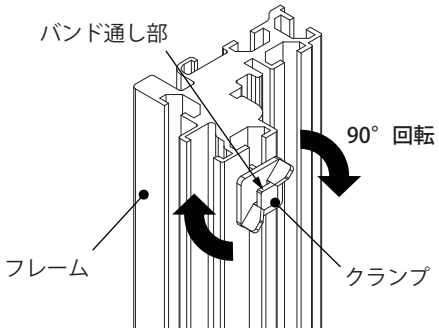
①クランプをフレームのバンドクランプ取付可能部にはめ込み、右回りに90°回転してください。
②クランプのバンド通し部に結束バンドを通し、結束してください。
③結束バンドの結束を外す場合は、ロック部を図の矢印方向に開くとロックが外れます。操作しづらい場合は、⊖ドライバーなどを使用してください。

ご注意

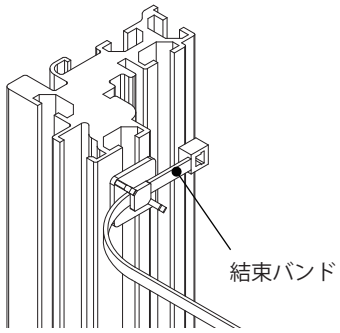
・結束バンドを締過ぎないでください。締過ぎるとケーブルを傷めるおそれがあります。また、結束バンドが外しづらくなります。
・ケーブルなどを整線する際は必ず数ヵ所で結束してください。フレームタテに取付けした場合、1ヵ所のみに負荷がかかるとクランプが滑り落ちるおそれがあります。



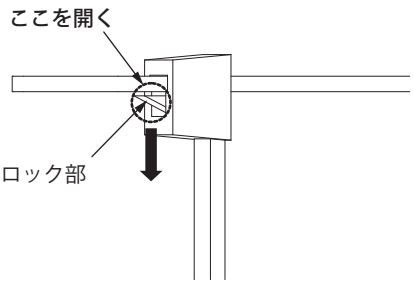
バンドクランプ取付可動部
フレームタテ断面図



クランプ取付方法



結束バンド取付図



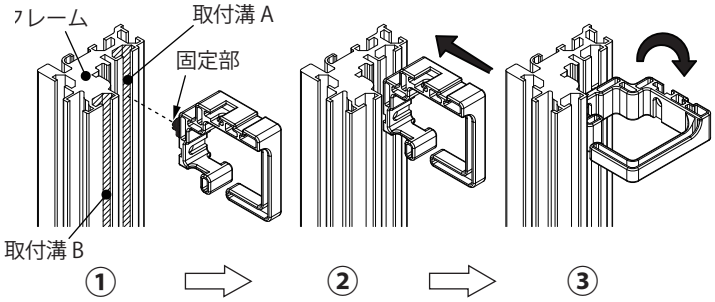
結束バンドの外し方

●ケーブルホルダー（AH 用）【RD87-AHK】

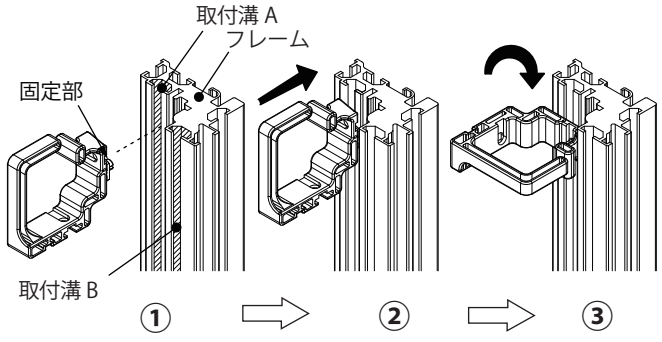
《フレームへの取付方法》

ラックフレームの取付溝 A または B にケーブルホルダーの固定部を差込み、右回りに 90° 回転させて取付けてください。
（①→②→③の手順で取付けてください。）

向かって左側



向かって右側



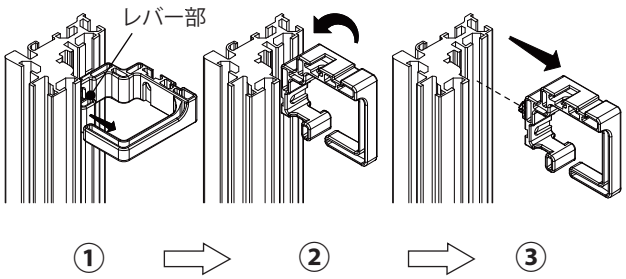
ご注意

・確実にロックするまで回転させて取付けてください。
・最初に固定する際は、回転が硬く感じる場合があります。徐々に回転させて取付けてください。
・ケーブルホルダーの取付方法は、フレームの左右で違います。逆回転での取付けはできません。

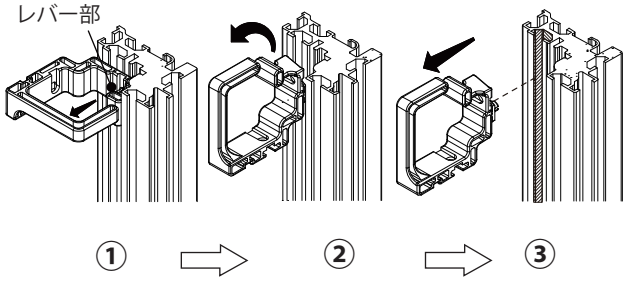
《取外方法》

レバー部を引きながら、左回りに 90° 回転させて取外してください。
（①→②→③の手順で取外してください。）

向かって左側



向かって右側

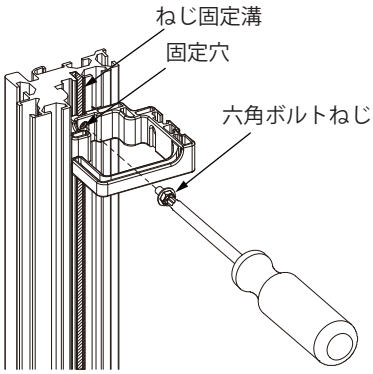


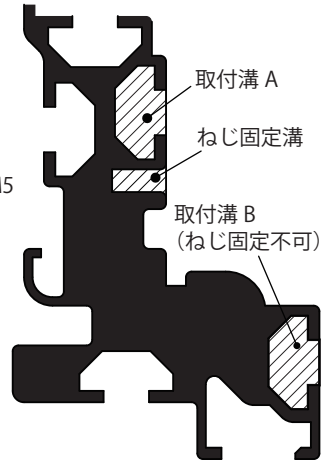
《フレームへのねじ固定方法》

ケーブルホルダーの位置ずれ・回転防止対策として、フレームへのねじ固定が可能です。
（ラックフレーム取付溝 A のみ）
ケーブルホルダーをフレームに取付後、ケーブルホルダーの固定穴を付属ねじ（六角ボルトねじ M5）で固定してください。

ご注意

フレームのねじを止めた部分に跡が残ります。ケーブルホルダー取付位置を決定後、ねじ固定を行ってください。





フレームタテ断面図

⚠注意

取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。締付けが不十分な場合、破損・落下の原因になります。また、締付け過ぎの場合は、製品を破損するおそれがあります。

ねじ呼び	適正締付トルク N・m※
M5	2.5

※ただし、S タイトねじにおいて締付時の初期トルクはこの限りではありません。

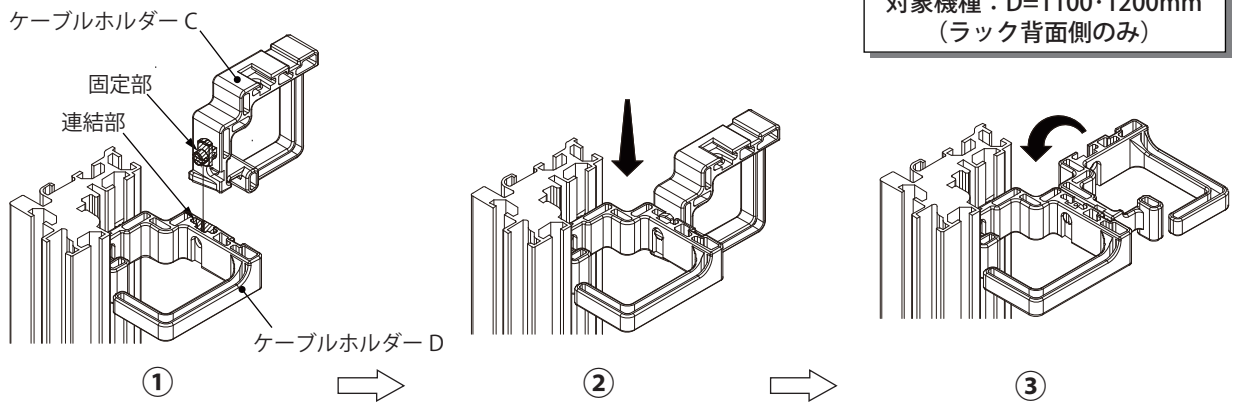
《ケーブルホルダーの連結方法【RD87-2AHK のみ】》

配線の系統分けや配線量が多い場合、ケーブルホルダーの連結による追加が可能です。
ケーブルホルダー C の固定部を図の方向にケーブルホルダー D の連結部に差込み、右回りに 90° 回転させて連結してください。
（①→②→③の手順で取付けてください。）

ご注意

- 確実にロックするまで回転させて取付けてください。
- 逆回転での取付けはできません。
- ケーブルホルダーを連結する場合、ラックフレームに取付けたケーブルホルダー D は、ねじ固定での使用を推奨します。

対象機種：D=1100・1200mm（ラック背面側のみ）

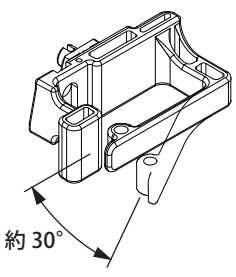


《ケーブルの収納方法》

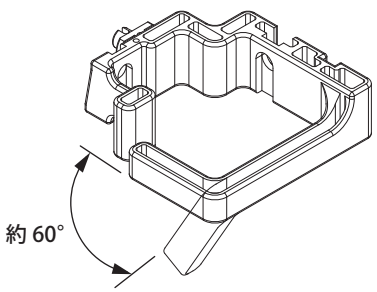
挿入部を手で曲げて、ケーブルを収納しください。

ご注意

ケーブルホルダーにケーブルを収納する際は、挿入部を曲げ過ぎないでください。変形・破損の原因になります。



RD87-1AHK

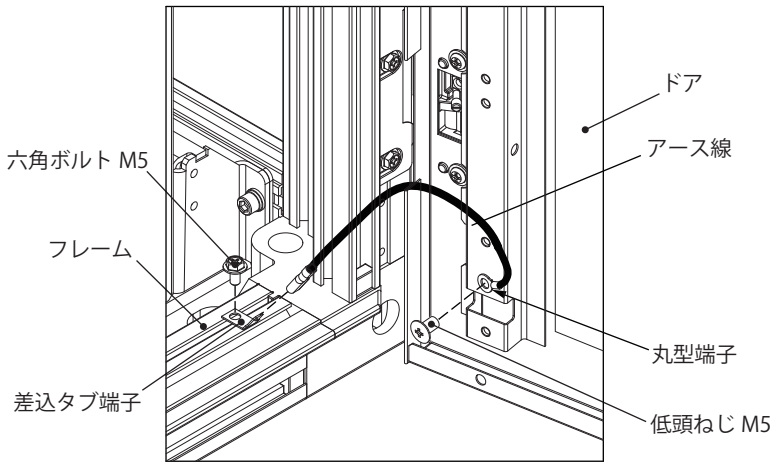


RD87-2AHK

●アース線【RD891-20C】

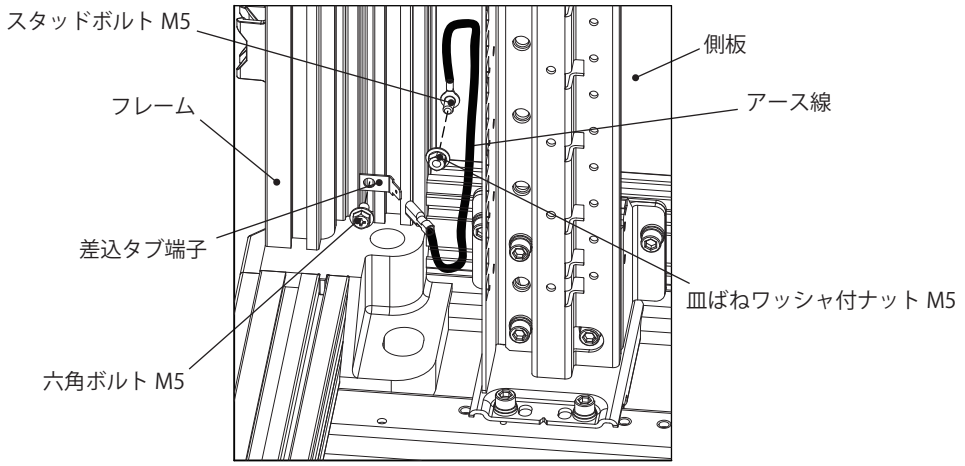
《ドアの取付方法》

1. ラック本体のフレームへ、差込タブ端子を付属ねじ（六角ボルト M5）で取付けてください。
2. ドア下部の取付穴へ、アース線の丸型端子側を付属ねじ（低頭ねじ M5）で取付けてください。
3. アース線の差込形接続端子を、フレームに取付けた差込タブ端子に接続してください。



《側板・天井板の取付方法》

1. ラック本体のフレームへ、差込タブ端子を付属ねじ（六角ボルト M5）で取付けてください。
2. 側板（下側）または天井板（背面側）のスタッドボルト（M5）へ、アース線の丸型端子側を付属ナット（皿ばねワッシャ付ナット M5）で取付けてください。
3. アース線の差込形接続端子を、フレームに取付けた差込タブ端子に接続してください。



⚠注意

取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。締付けが不十分な場合、破損・落下の原因になります。また、締付け過ぎの場合は、製品を破損するおそれがあります。

ねじ呼び	適正締付トルク N·m※
M5	2.9 ～ 3.9

※ただし、S タイトねじにおいて締付時の初期トルクはこの限りではありません。

仕様など、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。
また、ご不明な点がありましたら弊社お客様相談室にお問合わせください。
この説明書の内容は 2015 年 4 月現在のものです。

B948748927

日東工業株式会社
© NITTO KOGYO CORPORATION

〒480-1189 愛知県長久手市蟹原2201番地
お客様相談室／TEL（0561）64-0152
http://www.nito.co.jp